

《原 著》

バセドウ病治療における抗甲状腺剤と ^{131}I 内用療法の費用効用分析

林 克己* 阿部 克己* 坂田 郁子* 坂口 千春*
山本健太郎* 小須田 茂*

要旨 バセドウ病治療において、 ^{131}I 内用療法は ATD (antithyroid drugs) 治療と比べて寛解率が高く副作用が少ないとされているが、生涯医療費、QOL に関して比較検討はなされていない。アンケート調査から得られた効用値に基づき、生涯医薬品費 (^{131}I 内用療法には管理費を含む) と効用値算出を行い、バセドウ病治療における ATD 治療と ^{131}I 内用療法の費用対効用を解析した。中等度甲状腺腫を有し、甲状腺中毒症状を 2-3 か月前から訴える 30 歳の女性で、バセドウ病新鮮例をモデルとした。ATD 治療戦略判断樹と ^{131}I 内用療法戦略判断樹を作成し、1,000 例をシミュレーションしたコホート研究とし、70 歳まで経過観察すると仮定した。効用値の最大値、最小値を 1.0, 0.0 とした。割引率を 5% として 40 年間の医薬品費と効用値を算出した。ATD 治療戦略、 ^{131}I 内用療法戦略の全医療費はそれぞれ 85,739-88,650 円 / 患者 / 40 年, 81,842 円 / 患者 / 40 年, ATD 治療戦略、 ^{131}I 内用療法戦略の全効用値はそれぞれ 16.47-16.57 / 患者 / 40 年, 17.41 / 患者 / 40 年となった。バセドウ病患者における ^{131}I 内用療法は国民医療費削減のみならず、治療後の QOL の面からも ATD 治療よりも優れており、広く普及すべき治療法と思われる。

(核医学 42: 87-95, 2005)